資料１

令和8年度
行田市避難訓練・一斉避難所開設訓練
説明会



行田市危機管理課

自助共助の重要性

阪神淡路大震災建物損壊に巻き込まれた方
（約35,000件）のうち

・７７％ が近隣住民等

・２３％ が消防・自衛隊等

によって救助

令和６年能登半島地震、令和８年熊本地震
➢同様に自主防災組織の重要性を伝える報道がある。

行政だけでなく地域での取組が重要
＝自助・共助（自主防災組織）の重要性

令和8年度 避難訓練・避難所開設訓練について

～「気づき」から始める、いざという時の備え～

概　要：地震を想定し市内の全避難所で、**市民を対象とした避難訓練**と、
避難所担当職員による避難所開設等を実施する。

日　時：令和８年１１月２８日（土）　９：００～
＊防災行政無線、LINE、メール等で避難開始の合図

場　所：全指定避難所（５２箇所）

対象者：①市民（自主防災組織、自治会、防災士を含む）
②市職員（避難所担当職員）

内　容：①市民（自主防災組織、自治会、防災士を含む）
非常用持ち出し袋の準備等 ➢ 指定避難所への避難（移動開始）
➢ 避難経路確認➢ 受付 ➢ 避難所の確認
②市職員（避難所担当職員）
指定避難所の開設、避難者の受付、避難所運営資材等の設置

今回の訓練の目的は「気づき」

この訓練を通じて…

実際の災害時に「何ができるか」「どう行動すべきか」を
考えるきっかけにしてください。

対象	目的
市民（家族）	慌てず・安全に避難所にたどり着くこと、また避難所受付を経験する
自治会 自主防災組織	日頃の備えを実践で確認する
避難所担当職員	スムーズな開設・運営を身につける

【参考】 日ごろからの備え（市民・自治会・自主防災組織）

事前準備（日ごろからの備え） 一例

市民（家族）	自治会・自主防災組織
□倒れやすい家具はないか □災害用備蓄品はそろっているか □非常用持出袋は用意しているか □いざという時の家族との連絡先・集合場所等の共有はできているか	□近所同士で日ごろからあいさつをしているか □地域で、自主防災組織の資器材がどこにあるか確認しているか □災害発生時、地域の災害対策本部はどこになるか確認しているか □地域で、要支援者（高齢者、障がい者など）はある程度把握しているか

事前にできること例

➢盆踊りやお祭りなど地域のお祭りに顔を出す。（防災活動のきっかけ）
➢犬の散歩をする。（避難ルートの安全確認）
➢朝の登下校の見守り（地域の子どもと高齢者の顔の見える関係づくり）
➢定期的に集会所に集まり会合を開く
➢地区の防災訓練を実施する

日ごろの備えが、いざというときに役立ちます。

【参考】 タイムスケジュール（市民・自治会・自主防災組織）

時刻	市民（家族）	自治会・自主防災組織
8：20	**震度６強の地震発生！！** **身の安全を確保　シェイクアウト（体を低く、頭を守り、動かない）** **（揺れが収まったら・・・・）**	
8：20～	□家族の安否確認、建物の安全確認 □火の元確認、ブレーカー確認 □倒れた家具よりも身の安全の確保を	※「市民」の動きと同様
8：30	**災害対策本部設置（市危機管理課）**	
	□非常持ち出し袋（貴重品、常備薬、非常食等）をもって安全を確認しながら屋外へ出る □安全な場所へ移動	□近隣住民へ手分けし、声掛けの開始 （特に要支援者・高齢者） □地域の安全な場所へ移動 □地域の被害状況の初期確認
～9：00	※市の指定避難所の開設まで安全な場所で待機	
9：00	**➢ 防災行政無線放送（LINE、メール）　「避難所を開設しました」**	
9：00～	□市の指定避難所へ向けて移動 □危険箇所（水路の橋、ブロック塀等）を確認しながら避難所へ移動、 □声掛け等安否確認の実施（ペット同行避難も可）	
	□避難所に到着・受付 （LINE、避難者カード） ＊LINE 登録未実施の方は登録 ※受付を確認したら終了です。資器材を確認したあと、安全を確認しながらご帰宅ください。	□避難所に到着・受付 （LINE、避難者カード） □市民の受付のサポート □避難所担当職員の受付サポート □LINE の新規登録サポート □市民の受付誘導等 □資機材の確認 （ダンボールベッド・ファミリールーム等）
～11：00		□ペット避難スペースの確認
11：00	**（順次解散）訓練終了**	

避難訓練を通じて**地域の防災**について**気づき・考え・再確認**するきっかけとしてください。

避難所受付の方法

LINEを使った受付

１．事前登録
２．当日受付でLINEのQRコードを読み込み受付実施

※受付に必要なLINEのQRコードは市報ぎょうだ１０月号にてお知らせします。

紙を使った受付

１．入口にて避難者カード（世帯ごと）に記入する。

※あらかじめ事前に避難者カードを記入しておくと受付が円滑にすすみます。
※避難している人の分の記入をお願いします。

自主防災組織の役割

⚠災害はいつ・どこで起きるかわからない

- 自然災害（ 地震・洪水・火災・火山噴火）
- 人為的災害（事故・テロ等）

⚠ 「知っている」と「できる」は違います。

繰り返し訓練することで、いざという時に体が自然に動くようになります。

⚠ 「自主防災組織の役割」をチェックリストで確認してみましょう。

今回は「簡易版」を訓練までに確認してみてください。

★このチェックリストはあくまでも**「参考」**です。

まずは、できることから一つでも行ってみることが重要です。

【参考】

自主防災組織　活動チェックリスト（簡易版）

	カテゴリ	やること	
1	体制・役割の確認	訓練の担当班・役割分担の確認（情報班・避難誘導班・救等）	
2		要支援者の確認（名簿・安否確認方法等） （要配慮者（高齢者・障害者・乳幼児等）確認）	
3	訓練内容・ルートの確認	避難場所・避難経路の事前確認と危険箇所のチェック	
4		ハザードマップを使った危険箇所の共有	□
5		自治会内の訓練シナリオ・タイムスケジュールの作成	□
6	資機材・備品の準備	防災資機材の点検（災害時すぐに使用できる状態か確認等）	□
7		誘導旗・腕章・拡声器などの準備（自主防災組織で用意しているものがある場合）	□
8	住民への周知	訓練日時・集合場所・内容の案内（回覧・チラシ等） **※危機管理課から回覧用のチラシを配布します。**	□
9		要配慮者への個別連絡・参加確認	□
10		避難経路・避難場所の事前周知	□
11	当日の段取り確認	各班リーダーへの最終説明・役割確認	□
12		訓練後の振り返り方法（アンケート等）の準備 **※訓練後に危機管理課から自治会長あてにアンケートを依頼します。**	□

★避難訓練に向けて、自主防災組織で確認していただきたい項目です。

★一つでもできることを実践してみてください。

自主防災組織の活動を確認するときの参考にしてみてください。

訓練実施後に危機管理課からアンケートの協力を依頼します。

地区独自のチェック表を作成して、地域の気づきを再発見してみてはいかがですか。

訓練を「自分ごと」に！

◇ **訓練は「やって終わり」ではありません。**

☑ 気づいたことを家族・地域で共有しよう

☑ 「次はどうすればよいか」を考えよう

☑ 日頃の備え（非常用持ち出し袋・連絡手段の確認）も見直そう

「今日の気づきが、
明日の命を守ります。」

本日はありがとう
ございました。